

西荻窪駅前滞留者対策訓練を実施

3月17日、西荻窪駅周辺では、大規模地震等が発生した場合に備えた駅前滞留者対策訓練を実施しました。訓練には、JR東日本や地元の商店会、町会、警察・消防など80名ほどが参加しました。

東日本大震災が発生した際、東京でも公共交通機関の混乱が翌朝まで続きました。そして、自宅に帰る手段を失った、いわゆる「帰宅困難者」が大量に発生しました。これが、首都圏で発生したならば、交通網はさらに大きな打撃を受けることが明らかです。平成24年4月に東京都防災会議が、東京湾北部地震（震度6強）による被害想定では、杉並区内の帰宅困難者は、9万2千人にのぼり、そのうち1万8千人が周辺施設に入れず、行き場のない帰宅困難者となると予想されています。

杉並区内には、JR中央線のほかにも西武新宿線や京王線、京王井の頭線、地下鉄丸ノ内線が運行されています。しかし、東京都統計年鑑の平成26年度の駅別乗車人員を比較すると区内の私鉄各駅では年間1000万人を超える駅はありませんが、JR4駅（高円寺・阿佐ヶ谷・荻窪・西荻窪駅）では最も少ない西荻窪駅でも1500万人ほど。荻窪駅は地下鉄丸ノ内線が乗り入れていることもあり、約4500万人が利用しています。こうしたことから、区内JR4駅では大震災で交通機関が止まるような状況下には、多くの帰宅困難者が見込まれます。

そこで、平成25年7月に「荻窪駅前滞留者対策協議会」を設置し、警察や消防をはじめ交通事業者、商業施設、ライフライン、町会、商店会など19の企業・団体が協力して滞留者の安全確保に努めることにしました。西荻窪駅周辺の滞留者対策連絡会も平成28年2月に設置され、今回が初めての現地訓練となりました。



17日午後2時、首都直下地震（M7.3）を想定した訓練が、西荻窪駅構内でスタートしました。電車やバスは運行停止となり、帰宅困難者が滞留する状況となっています。駅構内で滞留者役の住民に、交通機関の運行状況を伝達する訓練を行いました。そして、広域避難場所の桃井原っぱ公園に30分ほどかけて移動、さらに一時滞在施設に指定している西荻地域区民センターまでの誘導など、およそ80名が参加し訓練が実施されました。

西荻窪駅長は、「東日本大震災のような災害が起きたなら、多くの帰宅困難者が発生し駅前に滞留することが予想されます。こうした災害時に安全に誘導するには、我々だけでなく地域のことをよく知る皆さんの協力が不可欠です。よろしく願います。」とあいさつしました。杉並区では、今後、阿佐ヶ谷駅と高円寺駅にも連絡会を設置し、首都直下地震の発生に備えることとしています。

【問い合わせ先】

危機管理室防災課 電話3312-2111 内線3601